

【イベント案内】

丹沢大山自然再生委員会

- 自然再生シンポジウム～見えてきた丹沢再生～
内 容：丹沢の自然環境の保全・再生に取り組む、丹沢を知り抜いた人々からの活動報告や意見交換を行います。ぜひご参加ください！
実施日：平成23年10月30日(日)
時 間：13：00～17：00
場 所：かながわ労働プラザ(横浜市中区)
募集人数：280名
参加費：無料
締 切：10月20日(木)
申込み：ホームページ又はFAXにて丹沢大山自然再生委員会まで、ホームページ申込みフォーム(<http://www.tanzawasaisei.jp/>)、またはFAX 046-248-0737(行事名・住所・氏名・FAX番号・同行者を明記)にて。

県立秦野ビジターセンター

- 自然教室「丹沢登山！～自然再生の現場を訪ねて～」
内 容：自然再生って？丹沢で何が起きているの？ 県担当者の話を聞きながら、三ノ塔を登ります。標高差(約900m)。
実施日：平成23年9月25日(日)
時 間：9：15～16：30頃
協 力：県自然環境保全センター
募集人数：高校生以上30名(健脚向け)
参加費：1,500円(保険代、資料代)
締 切：9月8日(木)
集 合：ヤビツ峠 解散：大倉バス停

県立ビジターセンター行事のお申込み

往復はがきに行事名・参加者全員の氏名・年齢・住所・電話番号を記入の上、締切日必着で各ビジターセンターまで。宮ヶ瀬・丹沢湖ではFAXでの応募も受け付けております(その際はFAX番号を明記)。

※応募者多数の場合は抽選となります。

県立陣馬自然公園センター

- 自然教室「陣馬山で秋の草花を楽しもう」
内 容：陣馬山で草花を楽しみながら、山頂を目指しましょう！ 標高差約500m
実施日：9月29日(木)
時 間：8:45～14:30頃
募集人数：20名(未就学児不可)
参加費：1,000円(保険代込み)
集 合・解散：陣馬自然公園センター
締 切：9月14日(水) 必着

県立丹沢湖ビジターセンター

- (共催) 県立西丹沢自然教室
●自然教室「実践！山でのトラブル対処法」
内 容：人がたおれた!!血が止まらない!! そんな時の対処法を学びます。
実施日：10月16日(日)
時 間：9：00～16：00
募集人数：高校生以上20名
参加費：1,500円
締 切：10/3(月)
集 合・解散：西丹沢自然教室 *周辺の登山道を歩きます。

県立宮ヶ瀬ビジターセンター

- 自然教室「丹沢の野生動物～生活をさぐってみよう～」
内 容：丹沢はたくさんの野生動物がくらす場所。その生活をじっくりさぐってみよう！
実施日：平成23年10月22日(土)
時 間：10:00～15:30
募集人数：30名(未就学児不可)
参加費：1,000円(保険代込)
締 切：10月1日(土)
集 合・解散：宮ヶ瀬ビジターセンター

自然公園へ出かけよう



休館日のお知らせ
県立ビジターセンター：月曜日(祝日開館)、祝日翌日(土日開館)
1～3月第2水曜日(祝日開館)
年末年始(12/29～1/3)
箱根ビジターセンター：6月第2水曜日とその翌日、
年末年始(12/28～1/1)

県立宮ヶ瀬ビジターセンター

〒243-0111 清川村宮ヶ瀬940-15
Tel046-288-1373 Fax046-288-1162
開館時間 9:00～16:30
(1/4～2/28は16:00閉館)
<http://www.kanagawa-park.or.jp/miyagase/>

県立秦野ビジターセンター

〒259-1304 秦野市堀山下1513
Tel0463-87-9300 Fax0463-87-9311
開館時間 9:00～16:30(通年)
<http://www.kanagawa-park.or.jp/hadanovc/>

県立陣馬自然公園センター

〒229-0201 相模原市緑区佐野川1659-3
Tel0426-87-5270 Fax0426-87-5270
開館時間 9:00～16:30
(12/1～3/31は16:00閉館)
<http://www.kanagawa-park.or.jp/jinba-vc/>

県立丹沢湖ビジターセンター

〒258-0202 足柄上郡山北町玄倉515
Tel0465-78-3888 Fax0465-78-3777
開館時間 9:00～16:30
(1/4～2/28は16:00閉館)
<http://www.kanagawa-park.or.jp/tanzawakvc/>

県立西丹沢自然教室

〒258-0201 足柄上郡山北町中川1867-2-9
Tel0465-78-3940 Fax0465-78-3940
開館時間 8:30～16:30
(12/1～3/31は16:00閉館)
<http://www.kanagawa-park.or.jp/nishitanzawa/>

環境省箱根ビジターセンター

〒250-0522 足柄下郡箱根町元箱根日礼場164
Tel0460-84-9981
開館時間 9:00～17:00(入館は16:30まで)
<http://www.mmjp.or.jp/HakoneVisitorCenter/>

2011

9月号
No.91

～自然公園から季節のたよりをお届けします～
神奈川県自然公園だより

丹沢大山国定公園 県立丹沢大山自然公園 県立陣馬相模湖自然公園 富士箱根伊豆国立公園

アサギマダラのお気に入り

丹沢湖ビジターセンター



オオトラノオにとまるアサギマダラ



サフヒヨドリ



タムラソウ



オトコエシ

どの花が好き?アサギマダラに聞いても答えてくれませんが、彼らの様子を見てみると、何となく好きな花がみえてきます。今までアサギマダラがとまっていた花を思い浮かべると、ウツギ、テンニンソウ、タムラソウ、ヒヨドリバナ、ノコンギク、アザミ等々です。この中で一番多く集まる花は、ヒヨドリバナの仲間が多いように思います。ヒヨドリバナの仲間には、ヒヨドリバナ、ハコネヒヨドリ、サフヒヨドリなどがあります。一番多いときには、20頭ぐらゐのアサギマダラの群れがヒヨドリバナに集まっていた。

アサギマダラは、渡りをする蝶として知られ、中には1,500キロメートル以上移動するものもあるようです。夏から秋にかけて山を歩いていると目にする機会が多くなります。その時に花の蜜を吸引する姿が見られます。

みなさんも山を歩いてアサギマダラを見かけたら、どんな花にとまっているか観察してみてください。きっとアサギマダラの好きな花がみえてくると思います。(大津)

編集・発行：公益財団法人 神奈川県公園協会 〒231-0027 横浜市中区扇町3-8-8関内ファーストビル6階
TEL: 045-651-0931 FAX: 045-651-0932
公園課(自然公園担当): sizenkouen@kanagawa-park.or.jp ホームページ <http://www.kanagawa-park.or.jp/>
後援：丹沢大山自然再生委員会

神奈川県公園協会

検索

丹沢の異変① ~夏に葉が落ち、新緑になる木々~

宮ヶ瀬ビジターセンター

5月中旬に新緑を迎えた丹沢のブナ。しかし今年は、6月、葉が日に日に見えなくなり、ブナの木の周りで大量の幼虫が幹などを這い登っていたかと思うと、いつの間にか消えていきました。

7月、あとに残ったのは、葉が魚の骨のようになり、茶色くなった木々と足元に落葉した葉。そして、ブナは深緑の夏の森に、明るい黄緑色の新緑を見せました。夏の早すぎる失葉に来年の春の芽を開いていたのです。



7月初め、茶色くなった葉のブナの木



幹を登る幼虫

9月になると、標高の高い地域では木々の葉の色が少しずつ変わり、秋が始まります。しかし、8月に芽吹きをしたブナはこれから来年の春の芽も再び作りなおさなければなりません。一年に二度芽吹くことは、とても大変なことです。この異変を起こしたブナがこれから秋、そして来年の春は、再来年は…どうなっていくのでしょうか。

自然は、知らぬ間に適応し、限界まで耐えることもしばしばです。だからこそ、丹沢を歩き回っている私たちは、耳を目を研ぎ澄ませて、丹沢の異変をいち早く知り伝えることができればと思います。(谷脇)



魚の骨のようになったブナの葉



8月初めの黄緑色のブナの芽吹き(茶色っぽく色づいているのも食べられた木々です)

(注) 今年のブナの異変は、「ブナハバチ(ブナの葉を主食とするハチ)」というハバチの仲間の仕業。1993年、丹沢でブナの葉が大量に食べられるブナハバチの大発生によって知られ、2000年に新種登録された虫(日本全国に昔からいたようです)です。大発生の原因はまだわかっていません。

丹沢の異変② 忍び寄るシマシマの影?!

秦野ビジターセンター



防護ネットで覆われた田んぼ

9月、丹沢山ろくでは、青々とした田が広がり、畑には様々な作物が実ります。秦野では、落花生が収穫最盛期を迎えます。けれど、田んぼや畑はネットや柵だらけ…。

自然豊かな丹沢山地の裾には、様々な野生動物が暮らしており、農作物に手を出してしまうことがあります。こうしたネットや柵は、野生動物から作物を守るための大切な対策のひとつなのです。

中でもやっかいなのは、木登りが得意な動物たちの侵入阻止。ニホンザル、ハクビシン、そして、アライグマ! アライグマやハクビシンは、本来、日本の動物ではありませんが、ペット等の目的で持ち込まれ、猛烈な勢いで増え続けています。

特にアライグマは、スイカやトウモロコシなどの農作物、カブトムシなど昆虫、野鳥のヒナ、サワガニ、池のコイなど何でも食べてしまいます。2004年、生態系への悪影響が大きいため国が『特定外来生物』に指定。神奈川県でも防除計画を定め、捕獲が行われています。近年、秦野市内でも山ろくのブドウ畑で捕獲されるなどじわじわと丹沢山地への侵入が始まっているようです。もし、シマシマしっぽのアライグマを見かけたら、地元市町村まで連絡しましょう。

丹沢に昔から生き続ける生きものたちがいつまでも安心して暮らせる森や川がありますように…。(長縄)

※写真右上は、アライグマの特徴「シマシマのしっぽ」



落花生畑のアライグマの足跡



捕獲されたアライグマ

水辺を楽しむ季節です

西丹沢自然教室

夏の丹沢は登山するには暑く、この時期は涼しさを求めて、水辺に人が集まります。夏休みは家族の利用が増えて、水辺の生き物観察や水遊び、沢治いの登山道歩きを楽しんでいます。

カジカガエルは、川の上流や渓流の生き物です。フィフィフィと鳥のような美しい鳴き声が夏らしさを感じさせます。体が小石と保護色になっていて、河原に溶け込んでいることが多く、なかなか姿を見ることができません。しかし、目を凝らしてさがすと水辺の石の上にちょこっと登っていたりします。ヤマメも保護色ですが、動いているので見つけやすいです。

夏の西丹沢のハイライトは、滝を見に行くことです。蛙丸を指す登山道から少し外れると、下棚(落差40m)、本棚(落差50m)が見られます。二つの滝を見ると往復で二時間半くらいの時間がかかります。ずっと沢治いを歩くので涼しく、滝へ近づくといつでもひんやりした風が吹いているので、まるで天然のクーラーのようです。(倉持)



左が本棚。右側の溜まりは水がないことが多い。



カジカガエル
じっとしていると見つけにくい



ヤマメ
花崗岩なので、水中も意外と明るい

ビジターセンター周辺のセミ

箱根ビジターセンター

この夏は、各地でセミの声が聞こえないとか、少ないとか、なんだかちょっと変でした。箱根のセミ達もやっぱりちょっと変でした、こちらはいつになく元気だったのです。箱根にはアブラゼミやニイゼミなど平地のセミと、山地性のエゾゼミの仲間、合わせて12種類のセミがすんでいます。箱根ビジターセンターの周辺はちょうどその境目に当たり、平地のセミと山のセミ両方の声を聞くことができます。

梅雨の頃ビジターセンター周辺で、まず聞こえてくるのはヒグラシの声です。今年は、ヒノキ林を揺るがすほどの大合唱に「今、鳴いているのは何ですか?」と、たびたび尋ねられました。

梅雨の晴れ間、向かいの山から微かに聞こえてくるのは、「ミョーキン・ミョーキン・ケケケ」と、エゾハルゼミのちょっと風変わりな声です。梅雨が明けると今度はエゾハルゼミに代わって、コエゾゼミやエゾゼミが鳴きはじめます。エゾゼミのギイーという大きな声は、時にヒグラシの大合唱を掻き消すほどの大迫力でした。

夏真っ盛り、ヒグラシの合唱が小さくなってくと、クマゼミやミンミンゼミ、アブラゼミの元気な声聞こえてきます。ビジターセンターの周辺ではまだまだ少数派の平地のセミですが、この夏は大涌谷周辺でもクマゼミの声が聞こえました。そしていよいよツクツクボウシの声が聞こえてくると、箱根のセミの季節も終わり、秋の気配が濃く始まります。(石原)



箱根のセミの代名詞 ヒグラシ



箱根神社で見つけた アカエゾゼミ